九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)活動報告 : 第2巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

https://doi.org/10.15017/8301

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 2, pp.1-96, 2006-04. AQUA事務局
バージョン：
権利関係：

11.　おわりに

実験段階から事業段階へ、協力から共同へ

九州大学病院、医療情報部
中島　直樹

昨年は、AQUA プロジェクトにとって節目の年であった。8 月に台北で開かれた APAN (Asia-Pacific Advanced Network) において BoF から Medical Working Group へと承認されたのである。実はこのことは、我々に AQUA プロジェクトの方向性について大きな転換を求めている。「いつでもやめられる研究グループ」から「社会的責任のある事業」への転換である。これまでの AQUA は、研究グループとしては大きなものになり社会的にも少しずつ認知されてきていたが、あくまでも個人の資質や努力に頼ってきたため組織としては頼りないものであった。しかしながら今後は、例えば APAN においては新規に医療の研究計画が出てきても統括/支援する必要があるなど、社会的な責任が生ずることになった。将来の自律的に成立する事業計画を明らかにし、補助金やボランティア的な労働に頼った現在の運営から脱するスケジュールを明らかにする必要がある。また、国際・国内からの研究協力体制もそれぞれに対するインセンティブ（経済的、学問的 etc）を明らかにし、単なる研究への協力ではなく、「AQUA という自立的事業へのそれぞれの拠点からの参加」という形に転換していく必要がある。これらは AQUA が社会的な責任を果たし続けるために必要な作業であり、現在の AQUA における努力や実績を将来に継承するための義務でもある。

これらの作業は、多大な労力、時間、能力を要するものではあるが、日本にもアジア太平洋諸国にも国際遠隔医療ネットワークに対するニーズが存在するのは過去の AQUA の活動からも明らかであり、情報社会の発展という追い風の中にいることもまた確かである。

そもそも AQUA の目的は「アジア太平洋の医療の標準化の基盤構築」であり、現状において医療格差から不利益をこうむっている人々に標準的な医療を提供することを支援することである。その意味でも AQUA に課せられた社会的責任は大きく、上に述べた作業を速やかに実行することが求められている。